

# 祝三根小学校150周年

## 会報 八丈島三根会



明治三十九年建築校舎  
全景

三根小学校創立百年史より 資料提供：八丈島ふるさと塾



三根小学校創立百年史より 資料提供：八丈島ふるさと塾



昭和24年度58部

昭和24年度卒業生 写真提供：三根小学校



昭和13年度 三根小学校卒業記念

昭和43年度卒業生 写真提供：三根小学校

八丈島と三根と私達！

三根会ホームページ

八丈島三根会



検索

LINE 三根会



Vol.

9

2025.05.18

第43回八丈島三根会開催日発行

## いまどきの小学校

八丈島三根会会長

昭和三十六年卒 峯元 信博

住んでいる中野区の自宅から駅へ向かう通学・通勤路の途中に以前、中学校があった。しかし、残念ながら数年前に廃校になってしまった。今の社会の少子化の影響の結果であろうと思う。そんな区の学校の統廃合が進む中で、今度はその跡地に立派な小学校が昨年の四月に開校した。これも近くの二つの小学校が合併してできた結果である。

そして今時の新しい学校の建物は昔とは大違い、とても立派な箱物である。その敷地周りには樹木が二段に植えられ、見栄えの良いコンクリートの塀の造りや三階建ての校舎の建物との調和が取れていて、外観を眺めても美しい建物である。天気の良い日にはその調った学校の通りを歩いているだけでも、なんだか爽快な気分にもなる。そしてその新しい学校の構内を見学する機会があった。

中に入ると学校の室内は木材をふんだんに使っており、コンクリートと違い、暖かい雰囲気がある。そして廊下には木製のベンチが所々に設置されていた。子供たち同士のコミュニケーションの場所とのことだ。きれいな図書館は勿論、コンピュータールームもあり、他にはランチルーム、多目的室や自由に利用できるプレイルームなどもある。また、保健室の隣には子供向けアールームと称する小さな部屋もあり、ここでは子供の悩み事などの相談ができる部屋だという。また、その隣にもガラス天井で空が眺められる小部屋があり、子供たちの気分転換にもなれるスペースもある。今時の小学校は充実した設備が整っていて、昔の時代からは大きな変遷があることを感じさせられた。

今の新しい小学校はここに限らず、他の地域の学校もこんな最先端な設備が整っているのだろうか。驚かされる現実だ。しかし、今の成熟した社会では当然、これくらいの設備は当たり前かもしれない。

そして新しい小学校が出来たおかげで、この通りには朝夕に子どもたちの声が、響き渡り活気に満ち溢れている。その通りで毎回、見かける子供たちの様子や、行動を観察してみると楽しく思う。家路に足を止めて数人で悪ふざけをしている子供たち、遠くから大きな声で友達に話しかけている子、数人で立ち止まってこそ話している女の子たち、一人で寂しそうに首を垂れて帰っている子、顔を上げて電線に止まっている鳥を眺めているグループ、中には小さな虫でも見つけたのか、道路に脇の側溝をじいじと眺めて動かない子、子供たちの登下校の様子は奔放で様々だ。そしてアジア系の外国人と思われる子供たちも、日本の子供たちと一緒に通学している姿も見かける。そんな元気な小学生を目にしてると高齢者の我々も彼らから元氣も貰えるものだ。しかしよく考えてみると、こんな子供たちの様相は、昔の我々の時代の三根小学校の登下校の様子と変わらないのではないかと思う。

当時を思い浮かべると、我々も登下校ではこんな様相で学校に通っていたのは間違いない。そう思うといつの時代も小学生は変わらず、天真爛漫で、自分の意志のままに自由に振舞える大事な年齢の時期なのだ。その根元は今も昔も変わらないものだ。そして小さな子供たちは我々社会の大事な宝であり、また、将来に向けて大きく羽ばたけるたまごでもあると思う。

## 三根小学校 創立百五十周年に向けて

三根小学校 第三十六代校長 川畑 伊豆海

明治八年に創立した伝統と歴史のある母校三根小学校に着任し、三年目の春を迎えることができました。これもひとえに、卒業生の皆様、地域の皆様、教育関係者の皆様、保護者の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

早いもので、三根会「島でよさろー第一回」を本校の体育館で開催して二年が経過し、いよいよ三根小学校創立百五十周年の年、令和七年度がスタートしました。令和五年度に、準備会を立ち上げ、令和六年度九月には祝う会実行委員会が動き出しました。昭和四十九年に百周年（私は当時三小の三年生として在籍していました）を盛大にお祝いし、その後体育館の落成式に合わせ百二十周年をお祝いして以降、周年行事を行っていないため、三十年ぶりとなります。

歴代PTA会長の皆様にお集まりいただいた準備会で「百五十周年は大きな区切りだから、行おう。」「在籍している子供たちにとって、思い出に残る記念行事にしよう。」「日程は学校に任せる。」ということが決まったのが、二年前。どのように進めたらよいか、正直悩みました。さらに残念なことに、教職員の異動が激しい島の学校は、管理職の引継ぎも思うようにできていないのが実状です。周年行事を行った当時の資料は式次第と関わってくださった方のお名前のみ。教職員の力を借りて、ゼロから創り上げる周年行事となりました。

昨年、教職員で話し合う中、「子供たちも実行委員のメンバーに入れて活動したらいいのでは」という意見が出ました。

大人のアイデアだけではなく、柔軟な子供たちのアイデアを形にすることで、多くの子供たちが、主体となって取り組み、多くの子供たちの記憶に残るものにできるのではないかと。令和七年度に高学年となる子供たちに提案し、実行委員を募ったところ、何と二十四名の児童が立候補しました。二月二十五日に発足式を行い、二月二十八日の実行委員会から子供たちも参加しています。具体的には、以下の六つのチームに分かれ活動しています。①記念行事チーム、②記念誌チーム、③広報・会計チーム、④環境・美化チーム、⑤祝賀会チーム、⑥タイムカプセルチームです。「みんなで、つながる、ねっとわーく」頭文字をとると「みつね」を合言葉に、大人も子供もワクワクしながら創り上げ、多くの皆様と共に百五十周年をお祝いしたいと存じます。ご多用なこととは存じますが、ぜひこの機会に母校三根小学校へお越しくください。

以下、今年度の主な記念行事の日程です。

- ・百五十周年記念航空写真撮影  
五月二十日（火） 予備日 五月二十一日（水）
- ・百五十周年記念運動会  
十一月三日（祝・月） 予備日 十一月四日（火）
- ・百五十周年記念三小フェスティバル・祝賀会  
令和八年二月一日（日）

※記念祝賀会については、原則事前申し込みとなります。詳しくは、本校ホームページ等で、後日ご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。



## 三根小学校の始まり

八丈島の子供の教育はいつ頃から、どのように始まったのでしょうか？興味ある題材です。

八丈島では宇喜多秀家を始めとして、島に流された初期の流罪人たちは、いずれも政治犯や思想犯が多かったため、その中には学者、僧侶、医師、武将らが含まれており、いずれも当時の有識者で社会的地位や見識、人格の備わったものが多かったことから、同じ流罪人といっても、島民から敬愛され、師弟の教育もこれら流人の手に委ねられていた。流罪人も島で生活を維持していくために、その生活手段として島民の師弟を預かり、手習い師匠となり、読み書き、そろばんなどを教えていたという。

いずれにしても、島もかよわぬと唄にも歌われた絶海の孤島八丈島が、他の同じ条件のへき地、離島よりも教育が開発され、明治5年（1872年）の学制発布の時点において、すでにそのまま、その軌道に乗せることができる状態にあったことは、やはり、流罪人の一つの貢献であったことを認めなければならぬ。

そして明治の時代となつてからも流人等の学識者を師匠とした寺子屋式の私塾があった。授業の形式内容は師匠任せで女兒の塾生はなく、男児のみでその数も僅少であった。そこは三根の孫兵工部落の故小宮山トイ女の経営したものである。その後、トイ女は女兒の塾生も募集し、お針（洋裁）を中心とした教育も施した。このころの師匠は近藤富蔵、雨森スエの二氏が当てられた。

### ・明治5年

政府は学制を頒布し、全国に小学校の設立を呼び掛けた。それにより、我が三根においては地役人、高橋鉄之助氏が村民を勧誘し、川の平村民、持丸島左エ門宅を借りて夜学館を設立した。ここでは流客近藤富蔵、佐藤善蔵、大内正丸の三氏を教授に依頼した。然し、残念ながらこの夜学館は教授者間の意見不一致から不幸にも一年足らずで廃館になり、その後の明治6～7年の空白を見るに至った。

### ・明治8年4月

地役人兼戸長の高橋鉄之助、副戸長高橋郡之助、村民一同を会して明治5年の政府の学令の布告に因り学校設立のことを説諭し、当時の副戸長浅沼喜蔵の養蚕室を借用して校舎に充て流客北島米吉、菅原蔵人の助成を得て、村役場書記、高番与一、村民、浅沼冬松等教授の任に当たる。曲がりなりにもこの年、明治8年に三根地区で学校が設立され、それ以来、今日まで三根小学校はたゆみなく150年の歩みを続けてきている。この年が三根小学校の開校の年とされている。

### ・明治14年

校地・校舎の狭隘をもつて場所を、高橋鉄之進所有の宅地を払い下げて、川の平に村役場と合併の校舎を新築し、開校式を挙げた。その時の建築費、総計金、壹千余円にして内、地役人兼戸長の高橋鉄之助氏より金壹百円、副戸長高橋郡之助より金拾参円、村民有志からも、金貳百九拾六円拾四銭五厘（199名）の寄付を募り、新校舎を新築し、開校式を挙げる。

### 明治15年～38年

その後も台風で傾いた校舎の改築や学校生徒の増加などにより、狭い校舎の増築、広い運動場の確保などを繰り返し、紆余曲折を経て明治39年に至る。

### ・明治39年

明治36年に府知事の許可を得て校地を字新田に移し、起工以来の新校舎がこの年、明治39年1月15日、ここに完成して開校の典を挙げて同日を開校記念日と定める。校地3千坪、校舎建坪286坪、その建築費は当時の金額で一万七千八百九十円。学校建設の賦役も相当なものであったという。そしてこの時建設された校舎は昭和37年まで57年の長い間利用され数多くの人材を輩出している。それは我々、三根会の参加者の多くがまさに親しんできた校舎でもある。卒業年度で捉えると昭和42年度卒業までのクラスが通っていた校舎である。思い出深い三根小学校の木造校舎であった。

そして今年の令和7年は三根小学校の開校の年の明治8年よりちょうど150年の年に当たり、今年度は年間を通して三根小学校の様々なイベントが行われるという事です。

八丈島三根会 会報編集部より

資料、三根小学校創立百年記念誌・八丈島誌より

## 三根小学校 恩師、自省、そして今

昭和三九年度卒 菊池 清明

三根小学校の思い出を語るとなると、いの一番に出てくるのは一人の恩師との出会いです。普通、人生における恩師との出会いは、中学校、高校、さらには大学という順番で多くなるように思う。私の場合、これまでも多くの恩師との邂逅があり、今の自分の存在の多くをそうした先生方に負っている、という感懐をもっています。

しかし、多くの恩師の方々の中でも、今の自分の最も根幹的な部分、それも精神的、そして学問的なコアとなったものは、三根小学校の時の一人の恩師によって形成されたといっても過言ではありません。

その恩師の方は、菅原房先生。小学校五年生と六年生の時のクラス担任をされた方です。先生は、三根小学校の近くの一軒家に、私たちより二学年下の息子さんと二人で住まわっていた。先生は、遊びしか知らない当時の私たち、とりわけ神港地域の取り扱いが難しかったであろう悪童たちに、毎回、小テストを課した授業を通して、日々の勉強の大切さを無言で、そして厳格にご教示してくださいました。何か教訓的な、あるいは説教がましいことを言うわけでもなく、漢字と算数の問題をいつも授業初めにテスト形式で実施し、成績が伸びた生徒には手放しで褒めてくださる。その誉め言葉にのせられて、少しながら勉強に目覚めた生徒の中の一人が私でした。

ある日、先生が体調を崩されて学校を休まれた時、悪童数人と一緒に道端に咲く小花を摘んで、ご自宅にお見舞いに行った

ことがありました。先生はたいそう喜ばれて、私たちにお菓子とお茶をご馳走してくださいました。帰りに先生は泥まみれの一人一人の手を両手でしっかりと包みこむように握ってくれた。その時、先生の目には涙があふれていた。先生の涙顔とそのひと時の光景は、もう半世紀を超えても、鮮やかに蘇り、そしてなぜか何とも不思議な思いが胸にこみあげてきます。



三根小学校を卒業してから、菅原先生と連絡を取ることはありませんでしたが、私の母は、先生が亡くなるまで年賀状や時折書信を取り交わし、私の近況なども伝えていたようです。私が大学院を修了して国立大学に奉職することが決まったことを伝える母の手紙に、喜びあふれる言葉の返信をいただき、母はその書状を終生大事にしておりました。

菅原先生と同じように教師の道を進んだ私は、今、教え子から届く、成長して活躍する報せが、教師にとつてどれほど嬉しいものかはよく理解できます。その感謝の思いを直接、菅原先生にお伝え出来なかつたことは、かえすがえすも残念であるし、己の至らなさに実に心から恥じて、慙愧に堪えません。

三根小学校は、故郷の幼き頃の思い出と人生で最初の学びの機会を与えてくれたというだけでなく、自省と今の私の人生の道標を授けてくださった、かけがえのない方と出会えた大事な、大事な場所でもあります。

菊池清明（言語文化学博士）・・・オックスフォード大学上級客員  
研究員、東京都立大学、立教大学教授を経て、現在、関西外国  
語大学学長

## 思い出いろいろ

昭和三〇年度卒 浅沼 正三  
 三根小学校を卒業して、はや七〇年？もう七〇年です。いろいろな思い出しております。その、一端を忘れないように話したいと思います。

△担任の先生選任は何か基準があったのかな？  
 私の学年は、ほぼ九〇人ぐらいで二クラス。私のクラス名は「一組」といい六年間同じメンバーのクラスでした。担任の先生は、六年間女性の先生でした。

一年～二年が、菅原房先生  
 三年～四年が、セイ子先生  
 五年～六年が、ふみか先生  
 ところが、もう一つのクラス「二組」は六年間男子の先生で、喜田先生、高橋先生、虻川先生とすべて男子でした。

また、男子の先生は姓で呼び、女性の先生は名で呼んでいました。（菅原先生は、八丈島の出身で無いからかな？）後に、このことを「不思議」に思っていました。

△この学年は、特徴のある子が多く、特に「一組」は、女性の優しい先生でないとまらない？で決められたのは・・・  
 実際、わがクラス「一組」は、いろいろと問題を起こしました。

小さいことでは、体育に授業の合間に男子数人で「校庭の隅」で立小便をし、怒られて立たされたこともあります。大きいことでは、教室の床下に入り「ボヤ（小火）」を起こし大変な事態になりました。その他いろいろと、あったと思いますが省略。

△その後の話▽

①富士中学校一年に入学すると前代未聞。

「男子全員」一クラス、「女子全員」一クラスになっていたのには全員？ビックリ、しかも、男子は、男性教諭の山田平右衛門先生でした。

小学校時代の「事績」「功績？」が反映されたクラス分けだったと思います。中学二年からは男女を入れたクラス制になり、皆ほつとした？と思います。

②六〇歳の還暦祝いを八丈島で行い、ふみか先生が参加しました。

③菅原房先生とは、定年後住まいのあった町田市に一〇数名集い、懇親を深めました。

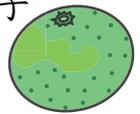
④虻川先生は、何回か三根会に参加頂いています。



三根小学校創立150周年を迎えて

## 低学年のおもいで

昭和四一年度卒 平井 園子



昭和三五年の入学時校舎は木造でした。雨の日は薄暗く一年生教室の南側には今となれば懐かしい佇まいの閑所があり時々匂いがしていました。側には金魚とめだかの池、校庭の南東に滑り台、鉄棒、雲梯、ブランコ、ブランコのそばには大きな銀杏があり黄色い葉が散るのを見ていた記憶があります。

滑り台では終業式などの節目にクラス全員で写真を撮りました。

低学年の教室と高学年の教室の間の中庭で、六年生の姉の授業が終わるのを待っていると担任の鈴木先生が「図書室で本を借りてもいいぞ」といつてくれて、それから本を読みながら姉を待つのが楽しみになりました。

二年生まで木造校舎で学び、コンクリート造りの校舎に移りましたが、家庭科室と図工室、体育館は木造で、体育館の奥には音楽室、音楽のワタナベ先生は白髪でかっぱ頭の穏やかな先生で、放課後希望者にピアノを教えてくれました。

十一月三日の運動会は今でも住民が応援に集まりますが、当時は他と比べようがないほどの特別な日で、保護者や地域の方々はよそいき着、着物で羽織のお母さんたちも大勢いました。

出店がでて菓子や果物が売られ、特に憶えているのは走り物の青いミカン、今でも未熟な青いミカンの匂いは当時を思い出します。

徒競走は裸足や足半(あしなか)を履いた児童がいて、この人達は特に俊足でかつこ良く見えました。

給食が始まったのは三年生の時で、それまでは三時間目と四時間目の間にビン牛乳が配られ、冬にはビンの口に乳脂が固まって飲みにくかった記憶があります。

子供の頃の時間はゆっくり流れていて一日が長かったように感じます。たくさん遊びました。干してあるよその家のネンジを失敬しながら遊び、ビンゴやネブタチ、イタドリ、桜の実や桑の実を取るのも楽しみでした。集団での行動が多く、上の子が下の子の面倒をよくみていました。

高学年が中心となって日曜日や夏休みには公道の道掃除という奉仕活動があり、朝早くにほうき持参で集まるのですが、私はこれが苦手でいやいや参加していました。

当然のことですが、子どもたちはみんな島ことばでした。今は島ことばを話す機会も少なくなつて、六〇年後の三小の子供たちに島ことばを教えることになるとは想像もしていませんでしたが、子供たちと関われることを嬉しく思っています。

戦争の経験もなく、食べ物で困ることなく過した時代を感じつつ、三根小学校に学ぶ児童がこれからも健やかであることを卒業生として、『島のおば』として願っています。

## 第43回八丈島三根会総会

- 12:00 三根会総会開催 (司会 幹事長 鈴木 茂)  
会長挨拶 会長 峯元 信博  
会計報告 佐藤 千鶴代  
会計監査報告 菊池 清明  
来賓挨拶 八丈町町長 山下 奉也  
来賓挨拶 八丈町議長 山本 忠志  
来賓挨拶 三根小学校校長 川畑 伊豆海  
来賓挨拶 都議会議員 三宅 正彦
- 12:30 乾杯 顧問 小宮山 肇  
<歓談>
- 12:55 懇親会 (司会 広報 雨宮 博一)  
フラダンス レイアロハフラスタジオ
- 13:25 歌自慢大会 有志  
恩師紹介  
学年クラス紹介 有志  
<歓談>
- 14:40 校歌斉唱 (全員) 会員有志  
万歳三唱 高田 実
- 15:00 終了



### 三根小学校校歌

作詞 野口雨情  
作曲 藤井清水

一、朝日はのぼり輝やきて

八丈富士の峰高く

仰ぐわれらの三根校

仰ぐわれらの三根校

二、剛健不撓の精神に

流れも強き黒潮の

沖ゆくごとく進みなん

沖ゆくごとく進みなん

三、磯うつ浪の絶ゆるなく

朝に夕べにいそしみて

いざもろともに励みなん

いざもろともに励みなん

### 協賛

■ 有限会社 坂下酒造 (焼酎)

■ 八丈興発 株式会社 (焼酎)

■ 佐々木 敏仁・典子 (あしたば)

### 協力

■ 八丈島町役場

■ 八丈町立三根小学校

■ 八丈町立富士中学校